

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800165		
法人名	有限会社しあわせの家		
事業所名	グループホームしあわせの家		
所在地	千葉県山武郡大網白里町南横川3148-20		
自己評価作成日	平成24年12月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成25年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんの表情が明るく生活感が溢れるようにサービス提供を行い、ホームを訪れた人達が自然と馴染んでもらえるような雰囲気作りには気を付けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR大網駅から4.5Km、車で15分たらずの閑静な住宅街の一角に位置し、2階建ての住宅を改造して使用しています。周辺は緑に恵まれ、四季が実感できる近くの公園に散歩することが楽しみとなっています。自然環境のなか利用者本位の支援を目指しています。
 2. 管理者はじめ職員は、常に利用者に寄り添いなんでも話し合える関係です。食事をはじめお正月のおせちや、誕生会のケーキなどもすべて手作りで、家庭的な雰囲気と温かさが伝わってきます。
 3. 現在の入居者は比較的自立歩行可能な利用者ですが、建物はエレベーターが無く、2階の部屋の6人は、毎日の階段昇降により食事や入浴、外出を行わなければならない、そのことが利用者の筋力を鍛えるトレーニングや運動になって、運動機能維持向上に繋がっていると思われます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設ではなく、住居であるという考えを少しずつではあるが職員間でも浸透しつつある。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げ、8月に運営法人全体で理念について考える勉強会を実施しています。管理者や職員は、職員会議等で確認し、利用者に安心・安全を提供し、質の高い支援を目指して取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での清掃活動など可能な場合には参加している。	自治会に加入し、来年度は役員も引き受けます。近くの公園で2か月に1回、草取りや清掃などを行っています。地域の敬老会にも参加し楽しい時を過ごしています。水戸黄門の寸劇、三味線の演奏などのボランティアに来て貰ったり、花火大会には近所にも声かけをするなど活発に地域と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、地域の皆さんに向けての勉強会などは実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出支援の報告や、入居者の身体状況などを報告して意見を伺っている。	市役所の担当者、地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者等のメンバーで、2か月に1回、市役所の指導のもと年間の日程を決めて実施しています。参加者から貴重な意見と適切な助言がなされ、運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告に加え、疑問や確認事項がある際には担当者を訪れ話をしている。	市役所の健康介護課の担当者とは、常に連絡を取り相談にのって貰っています。運営推進会議には、市役所、地域包括支援センター双方の出席もあり、密接な協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修にも参加をし職員にも周知を行っている。	内外の研修会に積極的に参加し、身体拘束排除を職員もよく理解しています。マニュアルも作成されています。日中は玄関の施錠をしていますが、外に出たい気配があると、無理に止めないで職員が見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等への出席をお願いしている。	家族の面会時と年1回ホーム独自でアンケートを実施して意見要望を聞いています。また毎月送付する請求書の備考欄に利用者の様子を記入しています。意見要望は管理者と職員で話し合い、実践に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、合同会議を開催し意見交換や改善策提案の機会を設け実践している。	月1回の職員会議や業務メモを使用し、意見を聴き運営に反映しています。管理者は、職員に6つの担当(帳票管理、備品、食材、環境整備、掲示板、畑・花壇等)を決め、自主性と責任感を持たせています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等も行い環境整備ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学等お願いし、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書に反映させ実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書に反映させ実践を行い、面会に訪れた際にはできる限り詳細に日常の様子を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	伝えるべき情報は常に開示するよう努力し、友好的な関係が構築できるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねてくる友人等を快くお迎えし、関係が継続できるよう努めている。	遠くに住んでいるためや仕事が理由で来訪しない家族もあり、家族が月1回ぐらい訪れる人から全く来訪者のいない人もいます。管理者は月1回送付する郵便や電話等で近況報告をして家族の関係継続の支援をしています。利用者によっては友人が頻繁に訪ねてくる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には職員が間に入り関わりがもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握には努めて実践できるような努力は行っているが、他の入居者とのバランスも考えて検討している。	言葉での伝達ができる人が9人中6人と大半で、希望が叶うように支援しています。難聴などで意思疎通が出来ず困難な場合は顔の表情や行動から利用者の意向を汲み取り対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活が継続できるよう取り組みを行い、その内容を反映させた介護計画を作成している。	利用者の意見と家族の希望、医師の診療情報提供票や看護師の看護日誌を考慮し、職員と共にユニット会議やサービス担当者会議を開いて介護計画を作成しています。見直しは3か月ではなく1か月毎に行い、更新継続、新規計画等を分析しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援を行っている。	内科医は月2回往診、歯科は週1回訪問診療があり、診察後には診療情報提供票が提出されます。緊急時はかかりつけ医の指示により対応します。また家族支援で整形外科に通院している人もいます。必要な時は週1回の訪問看護が利用できます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明を行い、実際に重度化した場合協力医より状況説明をしてもらい、家族の意思確認を行っている。	重度化した場合は、医師と家族と今後の対応について確認し、生活支援や処置など出来る範囲内で支援を提供しています。終末期の支援については同意書を取り、関係者と連携してできる範囲で看取り支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。	地震発生時の火災を想定した自主避難訓練と、消防署指導のもと防火訓練を併せて年2回実施しています。地域との関係についても民生委員の協力を得ています。マニュアルが完備され、最低限の備蓄もあります。	消防署と協力のもと、夜間想定避難訓練の実施が期待されます。備蓄は設置場所など工夫されていますが、大震災を想定し内容及び数量の充実に向け見直しが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不十分な部分もあるが改善できるよう努力している。	利用者の誇りを大事にし言葉遣いに気をつけ声かけ時には利用者の表情に気をつけて対応するようにしています。管理者は、職員の言葉で気になることがあった場合は、話し方について個別に注意をしています。	接遇マナー・終末期の知識・技術・レクリエーション方法の導入などについて研修を充実させることによって、職員の意欲向上を図ることが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能なものはお願いをしている。	食材は3日分を目安に近隣に利用者で買い出しに行っています。枝豆、恵方巻きなど季節感のある献立を取り入れ提供しています。食材担当者が集まり、見た目や美味しさの検討を始めています。利用者によっては家族が外食に連れ出す人もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助が必要な方については誘導等行い、自立の方には声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のパターンを把握し、本人の意思を優先して支援を行っている。	排泄チェック表を使って記録をとり事前支援が出来るようにしています。利用者の約半数が自立していますが、1～2時間毎に声かけるなど支援が必要な人もいます。利用者の自尊心を傷つけないように対応し失禁予防体操も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週2日と決めているが、入浴時に職員の都合で急がせたりしない取り組みはしている。	入浴は週2回で、入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯などお風呂が楽しめるように支援しています。清拭や足浴、陰部洗浄等利用者に応じて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に閉じこもりがちの方には、他の入居者と過ごしてもらえよう声かけをしているが、基本的には自由に過ごしてもらえよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば対応をしている。	散歩は、3～4コース、メニューを組んで天気や利用者の体調に合わせて出かけています。チューリップ祭、夏祭り、敬老会などに出かけたり、土日を使って海や東金、あすみが丘までの1時間くらいのドライブを行っています。夏は近隣に声をかけ子供も誘って花火大会を行うこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方はお任せしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃にも気を配り心地よく生活してもらえよう努力している。	30畳のリビング兼食堂は、フローリングで日当たりも良くゆったりしたスペースになっています。自動演奏の電子オルガンの音楽が流れています。猫と戯れたり、カラオケをしたり、ソファにくつろぐ人などそれぞれの好みの場所で、ゆったり過ごしています。また室温と臭いにも気を配り配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り対応している。	清潔な居室は、時計、エアコン、扇風機は備えつけてその他は持ち込み自由です。人形や写真、たくさん位牌や表彰状を飾る人など、各居室はそれぞれ特徴があり、まるで自分の家にいるように、自分のペースで居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		